

経済・金融
フラッシュ

鉱工業生産 24 年 7 月－自動車の下振れなどから、7-9 月期は小幅な増産にとどまる見込み

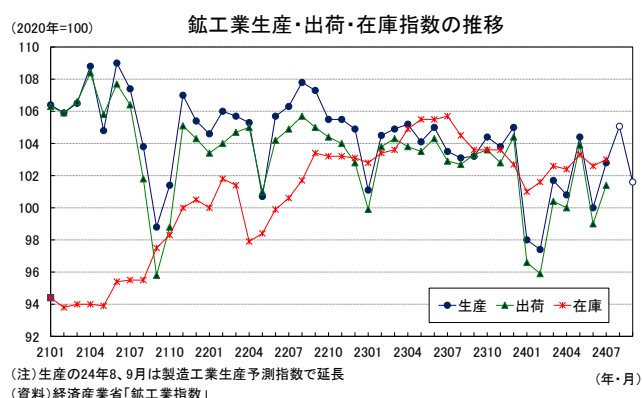
経済研究部 経済調査部長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 7 月の生産は 2 ヶ月ぶりの上昇

経済産業省が 8 月 30 日に公表した鉱工業指数によると、24 年 7 月の鉱工業生産指数は前月比 2.8%（6 月：同▲4.2%）と 2 ヶ月ぶりに上昇したが、事前の市場予想（QUICK 集計：前月比 3.4%、当社予想は同 3.3%）を若干下回る結果となった。出荷指数は前月比 2.4%と 2 ヶ月ぶりの上昇、在庫指数は前月比 0.4%と 2 ヶ月ぶりの上昇となった。

7 月の生産を業種別に見ると、石油・石炭製品（前月比▲7.6%）は低下したが、それ以外の業種は全て上昇した。世界的な半導体需要の回復を受けて、電子部品・デバイス（前月比 9.7%）、生産用機械（同 7.0%）が特に高い伸びとなった。新たな認証不正問題の影響で 6 月に前月比▲8.9%と大きく落ち込んだ自動車は同 1.9%と 2 ヶ月ぶりに上昇したが、23 年中と比べると生産水準は依然として低い。

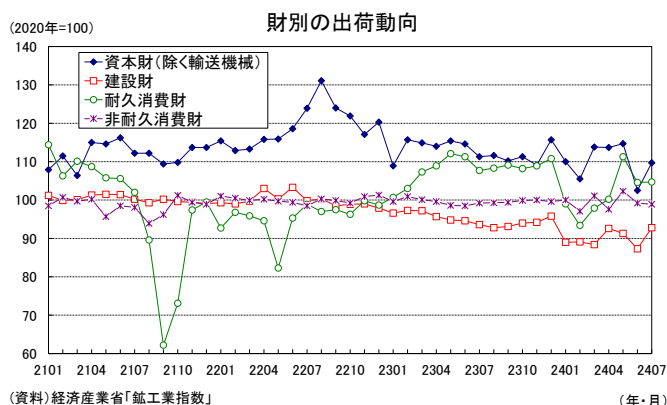


財別の出荷動向を見ると、設備投資のうち機械投資の一致指標である資本財出荷指数（除く輸送機械）は 24 年 4-6 月期の前期比 0.5%の後、7 月は前月比 7.0%となった。また、建設投資の一致指標である建設財出荷指数は 24 年 4-6 月期の前期比 1.8%の後、7 月は前月比 6.3%となった。

GDP 統計の設備投資は 24 年 4-6 月期に前期比 0.9%と 2 四半期ぶりに増加した。高水準の企業収益を背景に設備投資は持ち直しており、7-9 月期も増加することが予想される。

消費財出荷指数は 24 年 4-6 月期の前期比 4.7%の後、7 月は前月比 0.7%となった。耐久消費財が前月比 0.1%（4-6 月期：同 8.9%）、非耐久消費財が前月比▲0.3%（4-6 月期：同 0.3%）となった。

GDP 統計の民間消費は、認証不正問題の影響緩和に伴う自動車販売の回復などから、24 年 4-6



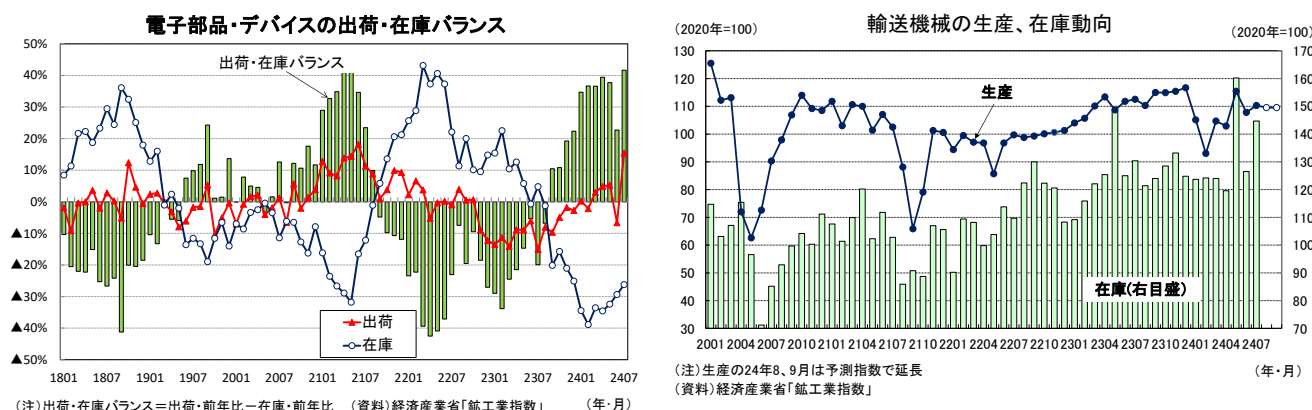
月期に前期比 1.0%と 5 四半期ぶりの増加となった。7-9 月期は 6 月に実施された所得税・住民税減税の効果もあり、2 四半期連続の増加となることが予想される。

2. 自動車は下振れリスクが高い

製造工業生産予測指数は、24 年 8 月が前月比 2.2%、9 月が同▲3.3%となった。生産計画の修正状況を示す実現率（7 月）、予測修正率（8 月）はそれぞれ▲1.7%、▲0.3%であった。

予測指数を業種別にみると、7 月に大幅増産となった生産用機械、電子部品・デバイスは 8 月もそれぞれ前月比 7.0%、同 5.7%の高い伸びが見込まれている。電子部品・デバイスの出荷・在庫バランス（出荷・前年比－在庫・前年比）は 6 月の 22.7%から 7 月には 41.7%へプラス幅が大きく拡大した。在庫調整の進展を受けて、電子部品・デバイスの生産は当面、堅調に推移することが見込まれる。

一方、輸送機械は 8 月が前月比▲0.7%、9 月が同 0.0%とほぼ横ばいの生産計画となっているが、主要自動車メーカーが台風 10 号の影響で 8/28 以降、工場の稼働を停止していることから、実際の生産は大きく下振れる公算が大きい。



24 年 7 月の生産指数を 8、9 月予測指数で先延ばしすると、24 年 7-9 月期の生産は前期比 1.4%となる。電子部品・デバイス、生産用機械の堅調は期待できるものの、もともと実際の生産の伸びが計画を下回る傾向があること、自動車の下振れリスクが高いことを踏まえれば、7-9 月期は小幅な増産にとどまることが見込まれる。1-3 月期の落ち込み（前期比▲5.2%）を 4-6 月期（前期比 2.7%）、7-9 月期の 2 四半期かけても取り戻すことはできない可能性が高い。